

【議事録】

■案件名：PARK-PFI「桃山公園」の魅力向上事業

■会議名：第5回 桃山公園ミーティング

■日時：2023年10月27日(金) 10:00～11:30

■場所：桃山台市民ホール(2階)

■参加者(敬省略)

(学識経験者) 大阪公立大学 緑地環境科学専攻 武田准教授

(桃山台自治団体協議会) 小山

(3丁目自治会) 柳田、伊藤

(ブランド桃山台) 森本

(サンメゾン桃山台アーバンビュー) 里見

(桃山公園を守る会) 田中、池田、浅井

(愛好会) 古川

(桃山台小学校PTA) 中村

(桃山公園クラブ) 稲山

(千里竹の会吹田) 口村 ※途中退席

(千里桃山台住宅管理組合) 智原

(吹田市公園みどり室) 陣門、小原、川本、金田

(指定管理者) グリーンホスピタルサプライ桃山公園 田中、野田、清山、清水

■傍聴人

(近隣住民) 中田(勉)、中田(清)、島田

(市議会議員) 林、柿原

■記録者：清水(指定管理者)

■資料：第5回桃山公園ミーティング 次第、桃山公園パークマネジメントプラン

1. 自動販売機の設置について

【資料の説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園】

前回ミーティングでのご意見を鑑み、今回の設置は見送る。

2. パークマネジメントプラン策定について<ファシリテータ：武田先生>

【資料の説明：グリーンホスピタルサプライ桃山公園】

アクションプランに基づく重点取組

- ・竹林の適正な維持管理
- ・入口広場ゾーン(花壇)の管理
- ・守るべき樹木自然の適正管理

【ご意見／ご質問】

A 委員：目指すべき姿は既に行政で決められていたことなので協議しないという意味か。

<武田先生>

してはいけないということではないが、すぐに変更できるものではない。行政計画の中で決められたものになる。

A 委員：「いつもと違う桃山 REBORN」という文言を初めて見たが、これも既に決定事項ということか。

<武田先生>

パブリックコメント等はどのようにして周知されたのか。

<吹田市>

令和 3 年（公募前）に目指すべき姿とパークビジョンを設定し、公募開始する前に公表済み。また、変更することは難しい。意見としては承る。

A 委員：公募する前に公表した後、公募計画が変更になったり、数年経って意見を聞いたうえでも、この内容を維持しているということか。「いつもと違う」という文言が 3,500 名の署名を集めた時の意見と異なる。現状をよりよくして欲しいという意見だった。

<武田先生>

確かに目指すべき姿には「いつもと違う 桃山 REBORN」とあるが、管理運営方針やアクションプランにはそういった文言は記載されていないので、現状の公園をどういった方針で継承していくかという内容を落とし込んでいくかが大事になってくる。

B 委員：近接する桃山台スポーツグラウンドとの相互利用により…の部分について、また駐車場拡大やコンビニ新設するといった案が復活するのではないか。また、東屋の辺りがスポーツグラウンドへ向かう自転車で利用する人たちの通行の妨げとなっており、プランと現実が異なっている。

すごく困っているという声を聴いているので、回答を待っている。

<指定管理者>

東屋のベンチのことか。現状を確認した上で回答させていただく。

※本件については、後日ご質問の B 委員へ、そもそも公園内の自転車乗り入れは禁止となっており、歩行者の相互通行は保たれている事をご説明し、ご理解頂きました。

C 委員：今回は公園の未来の話をしに来たつもりであるが、マネジメントプランに書かれていることは確かに大事だとは思いますが、将来どのような世代に楽しんでもらうかというビジョン・未来像が見えない。原風景を守りながらイベントをするというのも難しいように思うが、どのように考えているのか。

<指定管理者>

原風景を守りながら、親子や孫を連れてイベントするのはなぜ難しいとお考えなのか。

C 委員：できないとは思っていないが、難しいとは考える。公園はターゲット層が異なる。桃山公園は高齢者が多い地域であるので、高齢者にあった公園であってほしいというのが個人的な見解。

<指定管理者>

高齢者が多い地域であることはもちろん認識しているが、若い人たちにとっても魅力ある公園であることは間違いないと思っており、直近でも近隣の小学生が虫取りに来られていた。親子で自然に触れ合うことができる公園になるのではないかと個人的には考えている。別途、指定管理者としても回答する。

<武田先生>

今の話は管理運営方針 つなげるの中の「多世代交流」という文言に関わる部分かと思う。意見のあったように高齢者への配慮も大事だと思うが、ある世代だけが利用するというわけでもないので、「多世代交流」という文言がもう少しわかりやすく明記されるとよいのでは。

D 委員：パークマネジメントプランに「みんなで」という文言がたくさん出てくるが、自然の調査は専門の方にやっていただきたい。また、その際の予算はあるのか。

<武田先生>

基本的には指定管理者だけで決定して進めるのではなくて、市民に呼びかけたり子どもたちの学習の機会としたりすることを「みんなで」という書きぶりにしている。

D 委員：専門家に見てもらってから、植物なり生物なりのことが分かってから学習の機会を設ける方がいいのでは。そういった専門家に見てもらうのに予算がつくのか。

<武田先生>

ご意見についてはごもっともであるが、専門家の調査結果を指定管理者だけが保持しているのではなく、いかに共有するか、またそのプロセスにも住民の方にも関わってもらうことで、この公園に対する理解やその後の活用の方法と一緒に検討していきたいという意味が込められているかと思う。

<指定管理者>

年度毎に予算はあるが、20年あるので順を追って進めていきたいと考えている。

<武田先生>

指定管理者としての全体の予算はもちろんあるが、その案分については精査をしないとすぐには回答できない。

E 委員：竹林の現状把握の部分にも「みんなで」の記載があるが、人数等具体性に欠ける。ある程度担当者を決めて、実行・報告という流れがいいのではないかと。こういう会議体も報告メインにし、それに対しての意見を伺うといった進め方しないと前回と同じような話しかできていない。竹林の整備に関しても、まずはボランティアとして参加してから意見してほしい。以前、小学校の運動会に参加したが、一部の人だけが運営に参加して、あとは文句を言っているだけのように見受けられた。

一番悩んでいるのは柵の整備。また、桃山台に関しては竹が枯れている。原因はよくわからないが、枯れ竹の処理にも困っている。口で言うのは簡単だが、それを行う人をどのように集めるのか。

<武田先生>

会議自体はこれ以上人を増やして行うつもりはない。プランにある「みんなで」の趣旨としては、十数人でやられているボランティア活動について協力していけるような取り組みができればという意味である。

- C 委員：50 数年桃山台に住んでいるが、竹林のところだけは入れないのはなぜか。嵐山の竹林のように遊歩道を作るといったような開かれた場所にはならないのか。
- E 委員：黙って入られては困るので柵をしている。当会に登録したうえでかつ、グループであれば入ってもらっても構わない。
- C 委員：登録して入るのではなく、普段からは入れるようにはならないのか。
- E 委員：桃山台は観光地の嵐山のようにするほどでもない。距離も限られているので、上から楽しむだけで充分である。
- A 委員：以前、竹林の向かいの塾に機械が入った際にマンションの部屋から目が合うほどだった。竹林に遊歩道を作ったり、イベントを行ったりすることは住環境に悪影響を及ぼす。竹林保全のために近隣住民を巻き込んでボランティアを呼びかけるといった形をとってほしい。
- F 委員：以前は公園をただ利用するだけで無頓着であったが、守る会と一緒に清掃ボランティアに参加することで汗をかいて公園を守るということを理解した。過去、存廃論議になっていた沿線の清掃活動に参加したことがあるが、その時は民間・行政・住民と三位一体で活動していた。最初に事業者と話した際は労使協定があり、参加は難しいと言われたが、経営陣や管理職であれば労使協定も関係ないから参加してほしいと頼むと快く来てくれた。それ以降、現場の方も来てくれるようになった。行政の方も、市長が来てから来られるようになった。そこに座っている方々もそれ以外の管理部門の方々も汗をかいて公園を守っていくということを頑張ってもらいたい。
- G 委員：1964 年からずっと住んでいるが、もともとはただのどろ道で、竹は生えてなかった。今になって竹が大事ななんて言い出してファンタジーのように感じる。実際竹林の中に歩道ができていたりするが、指定管理者側で把握しているのか。

<武田先生>

ボランティア精神そのものは大事なことではあるが、活動内容については分けて考えていかないといけないのはご指摘の通り。

- H 委員：そもそも会議の構成がおかしい。多世代とはいうものの実際に会議に参加しているメンバーに偏りがある。先ほど署名の話も出たが、その署名された方の内訳として子育て世代はどのくらいいたのか。意見の数だけで見るのではなく、その割合も鑑みたく進めていってほしい。例えば自販機の件も、反対意見が多かったと聞いているが、毎日ご飯が食べられないような子どもたちに寄付ができるような自販機を設置するなど、今の社会問題に合わせて検討してほしい。そもそも公園は誰のものでもないのに、勝手に入れない竹林があるのは素朴な疑問。これからの未来を担う子どもたちが公園に愛着を持つには公園にもっと関わりを持たなければならない。

以前、ママ友と公園について意見を出し合ったが、そもそも子どもは遊べない。危ないし、人通りが少ない。自然ももっと子供と触れ合えるようになればいいのに、触っちゃいけない感じがある。昔は木々に触れたり、釣りをしたりして自然を楽しんでいたはずなのに、全て囲われてしまっているのが現状。指定管理者も入って、公園を良くしようとしている場なのに、敵対関係がひどい。食事会のようなフランクな場で意見交換を試みるのはどうか。

<武田先生>

協議会の進め方についても改めて工夫できればと思う。

D 委員：そもそも竹林のことは竹の会に任せているのか。ボランティアに任せるということが間違っているのでは。パークプランにもボランティアに投げていることが多々あるが、指定管理がボランティアに任せることではない。

<武田先生>

竹の会については指定管理が始まる前から市が依頼してボランティア活動を行っているため、今も活動いただいているというのが現状。

D 委員：20年の指定管理の中でボランティアに頼るといえるのはいかがなものか。

<武田先生>

そういう意見もあるだろう。ボランティアを増やしていくという手もある。

D 委員：市からは予算が出ているのか。

I 委員：予算が出たとしても人がいないのでどうにもならない。

D 委員：長い目で見たときにボランティアに丸投げではいけないのでは。

C 委員：竹林のスペースは広いので、聖域のように扱うのではなく、市民にも使える場として欲しい。

<武田先生>

竹の会だけが管理すべき場所でもないし、竹の会だけが使える場所でもない。かといって放っておいていい場所でもない。どうやって維持活用していくかを話し合っ決めていくしか方法はない。行政に全て任せることもできない。前向きにアイデアを出す場としていただきたい。

H 委員：「たけのこ堀り」を事業化するとかはできないのか。

<武田先生>

採算性はさておき、利活用のアイデアとしてはよいのでは。

J 委員：公園はみんなのものなので、特に地域公園で事業化することに対しては疑問。たくさんのボランティアが参加しているが、ばらつきがあるのでボランティアのまとめ役が必要。パークマネジメントプランについてもこのまま進めていくことは考えられない。定例会の工夫の件も「みんなで」の書きぶりの件も、前回と同じ話を繰り返しており、前進していない。前回議論を振り返り、もう少し具体的に書き直してほしい。

<武田先生>

会議運営については改善を検討頂きたい。また、ボランティア同士の連携や、どのような目標を持って取組でいくのかを、ぜひこの場で話し合うようにしないと意味を持たない。具体的にどのような提言があるのか教えて頂きたい。

J 委員：前回の会議では、相反する文言等が含まれているなど、桃山公園は今のままで良いと意見が出たと思うが、重点取組に記載されていないなど、前回会議での意見が反映されていない。

<武田先生>

「守る」の項目をもう少し具体的に記載する等の工夫が必要と理解します。

G 委員：「みんなで」はやはりわかりにくい。また、感情的かつ個人的意見を取り入れるのではなくて、プロフェッショナルの意見を入れてほしい。

<武田先生>

それについては適宜調査等で協力を仰ぐことはできるだろう。

傍聴人：そもそもマネジメントプランはパブリックコメントとして認められていないのでは。この公園の価値は、自然の移り変わりや動植物の息吹を感じる部分にあって、多世代交流やスポーツグラウンドとの相互利用というのは違和感がある。前回の協議会からずっと空中戦が続いており、プランも具体性に欠ける。今後予算を効率的に運営に使うために何にどのくらい予算を使って今どのくらい余っているかを開示することで、プランの具体性を詰めてほしい。

H 委員：そもそも変えたくないと思えば変えたいがそもそも違うので話し合いが平行線になっているだけ。今度、学校の秋祭りで子育て世代の意見と子どもの意見を聞いてくるので、その意見も聞いてほしい。

D 委員：予算の開示はできるのか。

<武田先生>

指定管理料の開示はしている。

<吹田市>

貼りだされていたように思うが、確認する。

傍聴人：その指定管理料の内訳を開示してほしい。

A 委員：以前情報公開を求めた際は黒塗りの状態だった。それでは情報公開の意味がない。

G 委員：東屋の部分、ボートをつけるところが指定管理が始まってからずっと鎖と三角コーンで注意書きをしているだけであるが、水位が上がってきており、子どもが間違えてはいると危険なので早く直してほしい。

<指定管理者>

早急に確認する。

<武田先生>

桃山公園の在り方を地域の方々の総意で決めることは難しい。そもそも公園の価値がどのように高められるか、住民の方との関わり方も大きく影響する。行政だけでなく、指定管理者が入ることでこれまで以上に良い循環になるように協議会も設けている。今回の内容を取りまとめたものを再度議論していきたい。

F 委員：現場の方は非常に親切にしてくださっているが、一人で抱え込まれて大変なので直接連絡できる窓口を設けてほしい。簡単に情報交換したい。工事業者が通路に駐車していたり、自動販売機設置における電気配線の不備だったり、現場だけでは対応しきれない部分について、本社管理部門の方に対応してもらいたい。

3. その他

○子育て世代向けにイベント(内容未定)

12月中

桃山公園パークセンター知ってもらうためのきっかけとしたい。

○SHIPグループによる公園とその周辺の清掃ボランティア実施

10月28日(土)

清掃の仕上がりについてはご了承願いたい。

○春日大池水面清掃

11月8日(水)

清掃船を浮かべての清掃。

○除草剪定作業

11月1・2日

台風被害による枯れ木の回収

11月3日～9日(天候による)

園内の除草剪定

K 委員：公園東側のフェンスが3本ほど取れているのを早急に直してほしい。

J 委員：除草剪定について、東側の黒松が枯れている調査も入っているのか。切るなら切るで、植栽の計画まで立ててほしい。

K 委員：噴水についてはどうなったのか。

<吹田市>

重点項目3の自然の調査において、継続的に検討していきたい。噴水があった方がいいという根拠を示してもらえれば、予算取りに向けて動くこともできる。

J 委員：これで本当に決定するのか。もう一度プランについて提案・議論できる場を設けるのか。

F 委員：回答待ちとなっている質疑についても、回答していただきたい。また、噴水については予算繰りが難しいのであれば、クラウドファンディングを募るなど方法はあるのでは。

B 委員：1月の協議会の後、4月から実施ではなく、もう少し議論を深める必要があるのでは。

<指定管理者>

協議会の臨時開催も視野に検討する。

以上